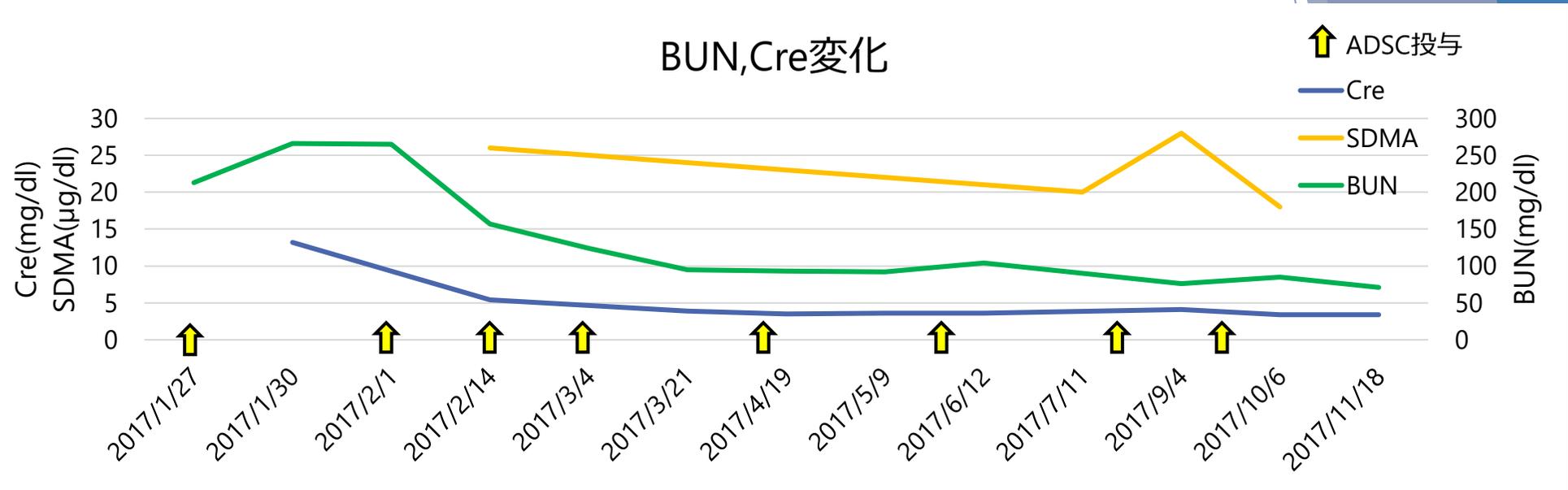


①急性腎障害（猫）

- ▶ アメリカンショートヘア、3歳、♂
- ▶ 主訴：食欲減退、元気消失、体重減少、飲水量増加
- ▶ 臨床症状：重度脱水
- ▶ 併用治療：皮下点滴 150ml/day 週5回
腹膜透析 急性期に2度
フォルテコール2.5mg SID
輸血 50ml 1回実施
- ▶ 突然の高窒素血症後、各種の治療に反応が見られず重度の腎炎を疑いADSCを投与
(計8回、IV投与、投与量： 3.0×10^6 cells/body)

①急性腎障害 (猫)



▶ 獣医師コメント

- ・投与後QOLは上昇（スコア変化：26_(2017/1/27)⇒49_(2017/3/4)）し、BUN、Cre、SDMAの低下も見られた
- ・輸血が必要であった貧血も改善が見られた
- ・2017年12月現在、週3回の皮下点滴、セントラ内服で良好に維持できている
- ・オーナーは投与後、日に日に元気になっていく姿に非常に満足されており、元気になった姿を喜ばれている（飲水量は依然多いが、食欲、元気は同居猫とも遜色ない）

②多発性嚢胞腎（猫）

- ▶ アメリカンショートヘア、5歳、♀
- ▶ 主訴：1歳時より血尿、一般状態は良好
- ▶ CBC、生化学検査、電解質、UPC、血圧：異常なし
- ▶ 尿検査：潜血反応（+）
- ▶ 超音波検査：両腎に嚢胞所見あり（2015.10.22 ADSC初回投与日）



左腎：長径32mm



右腎：長径19mm

②多発性嚢胞腎（猫）

- ▶ ADSC治療経過
- ▶ ・第790病日からADSC治療開始：他家ADSC（1回目）
- ▶ ・1週間後に2回目投与実施
- ▶ ・以降、約6か月に1回で継続投与（計6回投与 2015/10/22、11/6、2016/5/18、11/10、2017/5/9、11/13）
- ▶ 投与から150日目



左腎：長径21mm



左腎：長径16mm

②多発性嚢胞腎（猫）



投与から330日
左腎：明らかな嚢胞縮小



投与から330日
右腎：右側の嚢胞消失
左側は変化なし

②多発性嚢胞腎（猫）

- ▶ 現在、症例は10歳1ヶ月
- ▶ 嚢胞はその後、さらなる縮小はなし
- ▶ 血液検査：腎数値正常（BUN、Cre、SDMA）
- ▶ 尿検査：UPC含め正常

- ▶ 獣医師コメント
 - ・嚢胞の明らかな縮小が見られているため、ADSCの治療効果はあったと思われる
 - ・ただし、一定期間を超えるとそれ以上の縮小が見られないため、おそらく線維化などが進行した症例では、縮小させるのは難しいのではないかと考えられる
 - ・現在は、膿疱縮小よりも、腎不全にさせないためにADSCを6ヶ月に1回継続投与中である